

## 「講演」

NPO法人 地球のステージ代表理事 桑山 紀彦 氏

講演テーマ「地球のステージ ～今、私たちにできること」

### 1 はじめに

認定NPO法人「地球のステージ」は2002に設立され、現在5カ国で活動を展開している団体です。支援事業と公演事業の2つの事業を行っています。支援事業では、現地のニーズや声に応え、医療・心のケア・教育・災害復興の観点から、支援を行います。また、公演事業では、支援の現場で出会う様々な困難の中で、底抜けの明るさや生きる勇気を持つ、人間の底力を伝えています。

### 2 講演内容

地球のステージ代表で精神科の医師でもある桑山先生のギター演奏から始まりました。

活動されている地域の映像と共に自ら作詞作曲された曲を演奏され、いま世界では何が起きているのかを紹介して頂きました。

最初は、イスラエルとの紛争地域であるガザ地区の現状とそこで避難生活をおくる人々の状況を現地協力者と地球のステージスタッフが捉えた映像が流れ、桑山先生の言葉が続きます。

砲弾の直撃により破壊された建物と瓦礫の山、水や食料を求める人々、被災した人々を治療する医療関係者、桑山先生も医師の一人として治療に加わります。そんな戦火の中でも、地球のステージスタッフが現地の子供たちの為に教育活動とこころのケアを重点的に行ない、絵を描いたり色を塗ったり、いわば幼児教育と同じことから様々な展開がされています。最初は戦火の中「色なんて付けられない、僕たちの街は全てが灰色だ。」と言っていた子供たちが徐々にこころを開いてグレーの下書きにカラフルな色を付ける様になり、時

より笑顔も見られる様になって来ます。しかし、街は瓦礫で溢れかえり無残な状況でしかありません。一人の青年ジャーナリスト、ムハンマドさんは13歳のころから桑山先生たち「地球のステージ」の支援を受けて大学を卒業し、パレスチナの状況を世界に向けて発信する為に現地で危険を顧みず取材活動をされています。戦禍で電力も途絶え、太陽光パネルを使った充電器でスマートフォンを充電しながら映像を発信し、捉えた映像は生まれ育った彼でしか出来ないと思える臨場感に溢れるもので、多くの報道機関に取り上げられました。

ムハンマドさんが言うには「最も恐れていることは世界中の方がこの事実を忘れてしまう事、見えなくなってしまうこと。」だと訴えていました。

続いて、ロシアとの紛争が続いているウクライナの状況を紹介されました。ウクライナは元々広大な農地が広がる田園地帯で農業を中心とした国です。無限に続く小麦畑、ひまわり畑の映像は目を見張るものがありました。ひまわりはウクライナの人々に取って重要な油を採取するための大切な植物資源です。ウクライナの状況は戦闘の激しい地域では、ガザ地区同様に瓦礫の山と被弾した戦車、砲弾が飛び交う街は見るに耐えない状況です。しかし、広い国土を持つ同国は戦闘地域から離れると生活環境が保たれている地域があることも事実です。しかし、人々のこころは疲弊し、子どもたちからは笑顔が消え、いつ戦争に巻き込まれるか分からない不安な面持ちで暮らしています。「地球のステージ」スタッフは地域住民と子どもたちのこころのケアを重点に活動をされています。

最後に桑山氏のオリジナル曲演奏と共に、日本各地の映像が映し出され、平和とは何か、世界で起きている悲しい現実から目をそむけず、普段何気なく生活出来ることを感謝して過ごして欲しいとメッセージをいただきました。

迫力の映像、温かみを感じる詩とギターの音色は、目の当たりにした現実がより深い感動を得て、世界情勢について考えさせられる貴重な機会となりました。